

<濃尾平野の地層について>

濃尾平野は、県内の岐阜・西濃地域から愛知県、三重県方面に向けて広がっていますが、その地下には厚さ400mにも達するといわれる地層が存在しています。その中でも特に、第一礫層、第二礫層、第三礫層と呼ばれる3つの地層が、地下水を多く含む地層となっており、岐阜・西濃地域をはじめとする濃尾平野において、上水道用、工業用、農業用などに多く使われています。以下に主な地層の説明と濃尾平野の地層断面の模式図を示します。

沖積層最上部 (Acu) : 粘性土が主体。

沖積層上部砂層 (Asu) : 最上部層の下位に分布。

濃尾層 (N) : 粘性土主体の地層。第一礫層の加圧層として機能する。

第一礫層 (G1層) : 濃尾平野全体に広く分布し、南西に向かって傾斜する地層。扇状地の扇頂では地表に分布し、濃尾平野の降水や河川水が地下にかん養する入口(かん養域)として機能する。透水性が高く、地下水は農業用水、水道用水、工業用水と様々な用途で利用されている。

熱田層 (D) : 山側では砂主体の地層であり、各務原地域で段丘を形成し、降水や地下にかん養する入口(かん養域)として機能する。

海側では粘性土主体の地層であり、第二礫層の加圧層として機能する。昭和30～40年代の過剰揚水により地盤沈下が生じた地層。

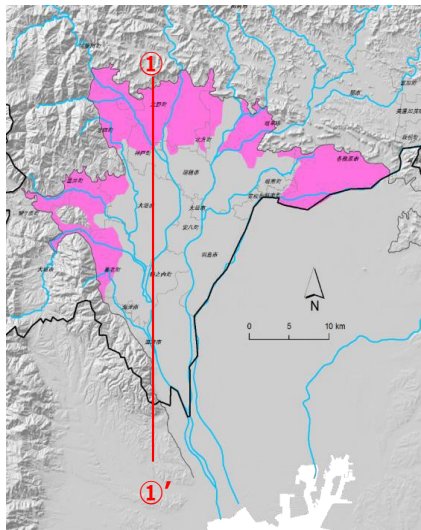
第二礫層 (G2層) : 濃尾平野全体に広く分布し、南西に向かって傾斜する地層。透水性が高く、地下水は水道用水、工業用水として利用されている。

海部・弥富累層 (Am・Y) : 山側では砂主体、海側では粘性土主体の地層。第三礫層の加圧層として機能する。

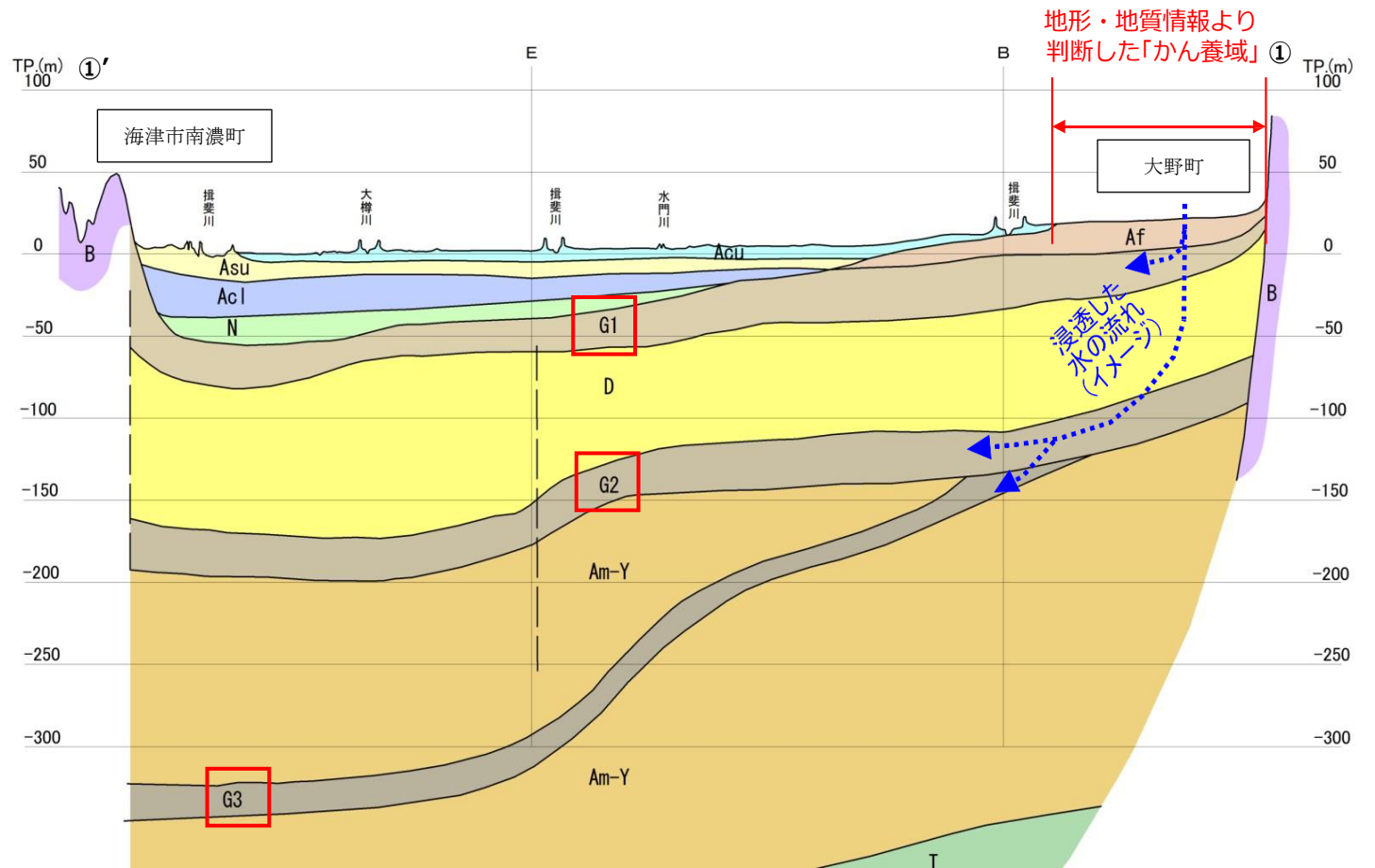
第三礫層 (G3層) : 第一～第三礫層の中でその分布は最も狭く、南西に向かって傾斜する地層。透水性が高く、地下水は水道用水、工業用水として利用されている。

東海層群 (T) : 濃尾平野で最も深い帯水層。水利用は少ない。

基盤岩類 (B) : 水を通しにくい地層。各地層の中で最も深い位置にある地層



- Acu 沖積層最上部粘土層
 - Af 扇状地堆積物
 - Asu 沖積層上部砂層
 - AcI 沖積層下部粘土層
 - N 濃尾層
 - G1 第一礫層
 - D 熱田層
 - G2 第二礫層
 - Am-Y 海部・弥富累層
 - G3 第三礫層
 - T 東海層群
 - B 基盤岩類
- ~~~~~ 層相境界
 - - - 断層
 - - - 副断層



濃尾平野の主な地層と地下水の流れるイメージ【大野町から海津市にかけての南北方向の断面】